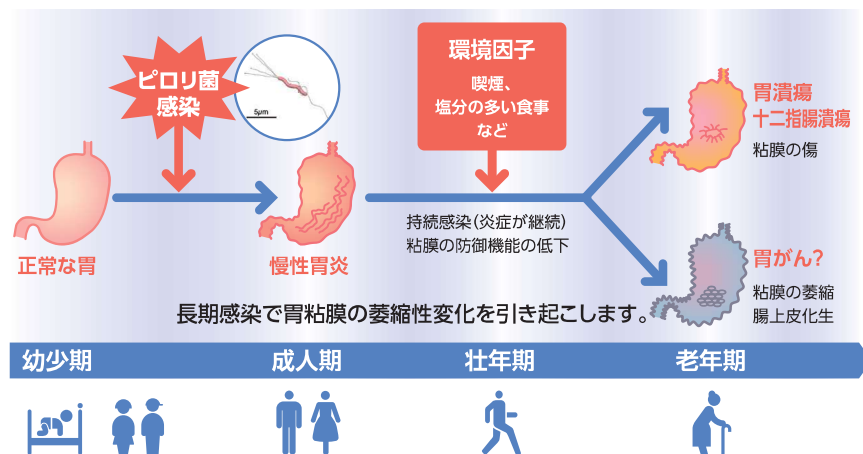


「胃がん」の原因の多くは「ピロリ菌」感染です！



幼少期の頃のピロリ菌感染が、大人になってからの胃がん、胃潰瘍の原因になります

「胃がんリスクABC検査」とは…

「血液検査」により

- ピロリ菌感染の有無（ピロリ菌抗体検査）
- 胃粘膜萎縮の程度（ペプシノゲン検査）

を測定することで、

胃がんの発生リスクを A～D の4群に分類する検査です。

ABCD判定	ピロリ菌抗体	ペプシノゲン値	胃粘膜状態の予測	1年間の胃がん発生頻度の予測	胃がんの危険度
A群	— (陰性)	— (正常)	ピロリ菌感染がなく、胃粘膜萎縮もない	ほぼ0人	胃がんになりにくい
B群	+ (陽性)	— (正常)	ピロリ菌感染があるが、胃粘膜萎縮は軽度	1,000人に1人	
C群	+ (陽性)	+ (異常)	ピロリ菌感染があり、胃粘膜萎縮が進行中	500人に1人	
D群	— (陰性)	+ (異常)	胃粘膜萎縮が高度で、ピロリ菌も住めない	80人に1人	胃がんになりやすい

認定NPO法人日本胃がん予防・診断・治療研究機構「胃がんリスク層別化検査管理指針」を元に作成

*過去に服薬によるピロリ菌除菌治療を行い成功した方は「E群（除菌群）」と判定されます。

その他、胃がんリスク検査の実施対象外となる症例等は裏表紙「お申込前にご確認ください」をご参照ください。

自宅でカンタン採血…「胃がんリスクABC検査」



「胃がんリスクABC検査」の結果が… 陽性（B・C・D群）判定だった場合

B・C・D群の方は、2ヶ月以内を目途に医療機関を受診してください！

「除菌治療」受診の流れ



医療機関を受診

主に「消化器内科」で医師の診察・精密検査等を実施します。



抗菌薬による除菌治療

胃酸の分泌を抑制する薬と2種類の抗生物質の3つの薬を一週間服用します。



除菌確認のための診察

除菌ができたか、呼吸検査等で確認をします。万が一除菌がされていない場合は、再度抗菌薬が処方されます。



除菌完了！

以降は医師の指示のもと、定期的に診察・精密検査等を実施してください。

医療機関受診後は… 健保組合からの「Webアンケート」にご回答ください



検査結果通知時に調査依頼のご案内をいたします。

ご回答が確認できない場合には健康保険組合または委託先よりご連絡をする場合がございます。

業務委託先：株式会社サンプリ